

— 資 料 —

家庭における絵本の読み語りの実態

長瀬 莊一 幸本 由紀子* 富本 佳郎**

A Survey of Reading Picture Books to Young Children in Homes

Soichi NAGASE, Yukiko KOMOTO and Yoshiro TOMIMOTO

要 旨

本研究は家庭における絵本の読み語りに関する実態を把握することを目的とした。幼稚園3歳児、4歳児、5歳児の保護者184名に対して、読み語り始めた年齢など13項目のアンケート調査を行った。結果、保護者たちは絵本の読み語りが子どもの想像力を伸ばし、人格発達の全面的発達を促すこと、親子の絆を強める働きのあることを実感していることが分かった。保護者が絵本を読み語る頻度は家庭によってかなりの差異があり、年齢段階が上がるにつれて少なくなる傾向がみられた。また、ほとんどの子どもたちは絵本を読んでもらうことに対して強い要求を持っていることが明らかになった。

キーワード：絵本 picture book, 家庭 home, 読み手 reader,
絵本の読み語りの頻度 frequency of reading picture books,
絵本の選択 selection of picture book,
絵本の重要性 significance of picture book

問題と目的

一般に、子どもたちは絵本に接することによって想像力を高めたり、美的感覚のような情操的側面を豊かにしたり、知的好奇心を促したりすると言われているが、こうした子どもの人格の発達にとって絵本がもっている意義のほかに、家庭における絵本の読み語り、読み手である親と聞き手である子どもとの間の心の交流を深めていくのに重要な役割を果たしていることが指摘されている。このことは現代社会における人間関係の希薄化、とくに家庭における親子の絆の弱さが問題になっている現状を考えると、その関係の回復を図る上からも重要な意義を示唆している。

そこで本研究では家庭における絵本の読み語りの望ましい在り方を考えるために、まず家庭

* 兵庫県豊岡市立豊岡ひかり幼稚園教諭

** 神戸女子大学名誉教授

において、絵本に関して子どもに対する保護者の関わり方と、子どもの絵本の好みに関する行動の実情を把握するための基礎的な調査を行うことにした。

研究方法

ここで行ったのは幼稚園の保護者を対象にしたアンケート調査である。実施の手続きは次のとおりである。

調査対象：神戸市内の私立T幼稚園の3歳児、4歳児、5歳児の保護者184名

調査日時：2001年12月10日

調査方法：幼稚園に依頼して、保護者にアンケートを配布して数日後に回収した。

調査内容：付表に示すように、①家庭で絵本の読み語りを始めた年齢、②誰が読み語っているか、③読み語っている時間帯、④どんな機会に読み語っているか、⑤一週間に読み語っている絵本の冊数、⑥どんな絵本を選んでいるか、⑦子どもの反応が良かった絵本、⑧読み手と子どもとの位置関係、⑨どんな配慮をしているか、⑩子どもは絵本が好きか、⑪子どもの要求とその対応、⑫絵本への期待、⑬その他の感想、の13項目である。

結果と考察

上記の項目のうち項目7、13以外の項目に対する回答結果は表1～12のとおりである。表の中のa～kは各項目における回答の選択肢を表している（付表参照）。各欄の数字は回答数、（ ）内は該当する家庭の数に対する％を表している。なお、項目2、3、4、6、8、9、12は複数回答である。以下、これをもとに順に考察していくことにする。

(1) まず、家庭で絵本の読み語りを始めた年齢についてみると、表1に示すように、現在の3歳児では2歳の時から始めたという回答(c)が比較的多く(40.0%)、4歳児と5歳児では1歳の時からという回答(b)が多かった(42.2%および36.6%)。0歳の時からという回答も各年齢段階を通して約30%あって、全体の90%以上が2歳以前から始めていると考えられる。これまでに読み語りをしなかったという回答は皆無であった。

表1 絵本を読み語り始めた年齢(項目1)

年齢	a	b	c	d	e	f	g	h
全体	56(30.4)	71(38.6)	41(48.8)	11(6.0)	4(2.2)	2(1.0)	0(0.0)	0(0.0)
3歳児	9(30.0)	10(33.3)	12(40.0)	0(0.0)	—	—	—	0(0.0)
4歳児	23(27.7)	35(42.2)	15(18.1)	7(8.4)	3(3.6)	—	—	0(0.0)
5歳児	24(33.8)	26(36.6)	14(19.7)	4(5.6)	1(1.4)	2(2.8)	—	0(0.0)

(2) 誰が絵本の読み語りをしているかについては、表2に示すように、3歳児と4歳児の

母親はすべてが読み手になっていて、5歳児では97.2%で、家庭における読み語りの主役は母親であることが分かる。しかし、父親という回答も41.3%あり、とくに休日には父親がその役割をしているという意見が目立っていた。このほか、4歳児や5歳児になると祖母をあげるものがそれぞれ19.2%と15.5%あり、そのほかには祖父や姉、兄があがっていた。

表2 絵本を読み語る人(項目2)

年齢	a	b	c	d	e
全体	182(98.9)	76(41.3)	29(15.8)	7(3.8)	9(4.9)
3歳児	30(100)	15(50.0)	2(6.7)	0(0.0)	3(10.0)
4歳児	83(100)	33(40.0)	16(19.2)	4(4.8)	3(3.6)
5歳児	69(97.2)	28(39.4)	11(15.5)	3(3.6)	3(3.6)

(3) 絵本を読み語っている時間帯については、表3に示すように、就寝前という回答(c)が多く、どの年齢段階でも半数を超えている。次いで、時間を決めていないという回答(d)が多く(4歳児では就寝前と同じくらい)、これ以外には3歳児での帰宅後(10.0%)があるくらいであった。「就寝前に必ず1冊は読むというのが習慣」という記入も多くみられた。時間を決めていないという回答は、たまたま時間に余裕があった時や、子どもからの要求があった時に読むということを意味しているようである。

表3 絵本を読み語る時間帯(項目3)

年齢	a	b	c	d	e
全体	7(3.8)	4(2.2)	105(57.1)	79(42.9)	0(0.0)
3歳児	3(10.0)	1(3.3)	17(56.7)	10(33.3)	0(0.0)
4歳児	1(1.2)	2(2.4)	43(51.8)	44(53.0)	0(0.0)
5歳児	3(4.2)	1(1.4)	45(63.4)	25(35.2)	0(0.0)

(4) どんな時に絵本を読み語っているかについては、表4に示すように、子どもが「読んでほしい」と要求してきた時という回答(c)がどの年齢段階でも80%を超えて最も多く、次いで、幼稚園から絵本を持ち帰った時という回答(b)、新しい絵本を買った時という回答(a)が60%前後で多い。親子のふれあう時間を持ちたい時という回答(f)も30~50%みられる。また、5歳児において、子どもに伝えたいことや考えてほしいことがある時という回答(c)が15.5%あった。これらのことから、家庭ではできるだけ子どもの要望に応えようとしており、絵本を読み語る機会をとおして親子の絆を強めたいという親の気持ちが強く感じられる。

表4 絵本を読み語る機会(項目4)

年齢	a	b	c	d	e	f
全体	109(59.2)	114(62.0)	156(84.8)	10(5.4)	20(10.9)	70(38.0)
3歳児	16(53.3)	16(53.3)	28(93.3)	0(0.0)	2(6.7)	15(50.0)
4歳児	55(66.3)	63(75.9)	67(80.7)	5(6.0)	7(8.4)	26(31.3)
5歳児	38(53.5)	35(49.3)	61(85.9)	5(7.0)	11(15.5)	29(40.1)

(5) 1週間に読み語る絵本の数は、表5に示すように、各家庭によってかなりのばらつきがみられる。最近は全く読んでいないという家庭もあるが、1～2冊という回答がどの年齢段階でも最も多く、次いで3歳児と4歳児では3～4冊、5歳児では3～4冊と5～6冊が同じくらい多かった。無記入が3歳児や4歳児で多かったが、これは読む絵本の数が多い時や少ない時があって一定していないために回答しにくかったためではないかと考えられる。このことはまた、絵本を読み語ることが、どの家庭においても日常的な習慣にまではなっていないことを示唆していると考えられる。今回の結果からは、一般的に年齢の低い3歳児でよく読まれていて、年齢の高い5歳児では読まれることが少ないという傾向がみられた。これは、5歳児の中には子どもが自分で絵本を読むことがあるということを示唆しているのかもしれないが、今後の検討を要することである。

表5 一週間に読む絵本の冊数(項目5)

年齢	0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～8冊	9～10冊	11～20冊	20冊以上	無記入
全体	10(5.4)	64(34.8)	34(18.5)	27(14.7)	16(8.7)	8(4.3)	7(3.8)	1(0.5)	17(9.2)
3歳児	0(0.0)	7(23.3)	5(16.7)	3(10.0)	3(10.0)	1(3.3)	4(13.3)	1(3.3)	6(20.0)
4歳児	2(2.4)	24(28.9)	19(22.9)	13(15.7)	11(13.3)	5(6.0)	0(0.0)	0(0.0)	9(10.8)
5歳児	8(11.3)	33(46.5)	10(14.1)	11(15.5)	2(2.8)	2(2.8)	3(4.2)	0(0.0)	2(2.8)

(6) どんな絵本を選んで読み語っているかについては、表6に示すように、子どもの興味・関心に合った絵本という回答(i)がどの年齢段階でも多いが、3歳児ではそれとともに内容が理解しやすい絵本という回答(g)も多かった(50.0%)。これは4歳児でも多かったが(43.4%)、そのほかに子どもが自分で読める絵本(c)やユーモアで面白い話の絵本という回答(e)も比較的多かった。5歳児でも自分で読める絵本をあげた回答が多く(29.6%)、知的好奇心を持たせる絵本をあげた回答(h)も他の年齢段階に比べて少し多い傾向がみられた(17.0%)。これに対して、静かなお話の絵本は5歳児の1名だけにしか選ばれていなかった。

表6 読み語っている絵本の種類(項目6)

年齢	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
全体	32(17.4)	34(18.5)	46(25.0)	24(13.0)	38(20.7)	1(0.5)	71(38.6)	23(12.5)	122(66.3)	14(7.6)	12(6.5)
3歳児	7(23.3)	6(20.0)	4(13.3)	4(13.3)	4(13.3)	0(0.0)	15(50.0)	2(6.7)	13(43.3)	1(3.3)	2(6.7)
4歳児	14(16.9)	14(16.9)	21(25.3)	6(7.2)	20(24.1)	0(0.0)	36(43.4)	9(10.8)	57(68.7)	8(9.6)	8(9.6)
5歳児	11(15.5)	14(19.7)	21(29.6)	14(19.7)	14(19.7)	1(1.4)	20(28.2)	12(17.0)	52(73.2)	5(7.0)	2(2.8)

(7) 家庭で読み語った時に子どもの反応が良かった絵本についての結果は下記のとおりである。まず、どの年齢段階の子どもにも共通して多かったのは、次の絵本であった。

- ・「ぐりとぐら」(中川李枝子・文, 大村百合子・絵, 福音館書店, 1963)
- ・「はらべこあおむし」(エリック・カール・作, 森比左志・訳, 偕成社, 1976)
- ・「3びきのこぶた」(イギリス昔話, 山田三郎・絵, 瀬田貞二・訳, 福音館書店, 1967)
- ・「てぶくろ」(ウクライナ民話, エウゲーニー・M・ラチョフ・絵, 内田莉沙子・訳, 福音館書店,

1965)

- ・「からすのパンやさん」(加古里子・作, 偕成社, 1973)
- ・「ももたろう」(松居 直・再話, 赤羽末吉・絵, 福音館書店, 1965)
- ・「バムとケロ」シリーズ(島田ゆか・作, 文溪堂, 1994)
- ・「14ひきのねずみ」シリーズ(いわむらかずお・作, 童心社, 1983)

これらの絵本の特徴は、はじめの6冊は出版されてから25年以上たっていて、長年にわたって子どもたちに親しまれてきた絵本である。これは、これまでの絵本の研究者たちが良い絵本の基準の一つとして示している条件(25年以上読まれていること)にも当てはまっている。

次に、上記以外に各年齢ごとに反応の良かった絵本をあげると、3歳児では次のようなものがあがっている。

- ・「しろくまちゃんのホットケーキ」(若山 憲・作, こぐま社, 1992)
- ・「ノンタン」(キヨノサチコ・作, 偕成社, 1976)
- ・「ねずみくんのチョコキ」(なかえよしお・文, 上野紀子・絵, ポプラ社, 1974)
- ・「あさえと ちいさいいもうと」(筒井頼子・文, 林 明子・絵, 福音館書店, 1976)

これらの絵本の特徴としては、はじめの2冊は絵本が小型で扱いやすいこと、また、はじめの3冊は単純にストーリーが展開されるので理解が容易であるということがあげられる。最後のものは生活に密着した内容で、子どもが登場人物に共感しやすいと考えられるものである。

4歳児では次のようなものがあがっている。

- ・「はじめてのおつかい」(筒井順子・文, 林 明子・絵, 福音館書店, 1977)
- ・「おおきなかぶ」(ロシア民話, A・トルストイ・再話, 佐藤忠良・絵, 内田莉沙子・訳, 福音館書店, 1962)
- ・「三びきのやぎのがらがらどん」(北欧民話, マーシャ・ブラウン・絵, 瀬田貞二・訳, 福音館書店, 1965)
- ・「そらめくんのベッド」(中屋美和・作, 福音館書店, 1997)
- ・「おふろだいすき」(松岡享子・文, 林 明子・絵, 福音館書店, 1982)

この年齢になると、ストーリーのあるものに興味を示す傾向があると考えられる。また、後の2冊のように絵がやわらかいタッチで描かれていて、空想性が豊かな絵本も好まれている。

5歳児では次のようなものがあがっている。

- ・「こんとあき」(林 明子・作, 福音館書店, 1989)
- ・「ちいさなクレヨン」(篠塚かをり・文, 安井 淡・絵, 金の星社, 1979)
- ・「せんたくかあちゃん」(さとうわきこ・作, 福音館書店, 1978)
- ・「11ぴきのねこ」(馬場のぼる・作, こぐま社, 1967)
- ・「7ひきのこやぎ」(グリム童話, F・ホフマン・絵, 瀬田貞二・訳, 福音館書店, 1967)
- ・「わたしのワンピース」(西巻茅子・作, こぐま社, 1969)

5歳児は3歳児や4歳児に比べて、さまざまな種類の絵本に興味を示している。また、ユーモアに富む内容の絵本を好む傾向がみられる。そのほか次のような、絵が少なく、比較的長

めの文で書かれている童話に興味を示す傾向もみられる。

- ・「ピーターパン」(J・バリ―・作, 石井桃子・訳, 福音館書店, 1911)
- ・「いやいやえん」(中川李枝子・作, 福音館書店, 1962)

(8) 絵本を読み語る時の子どもと読み手の位置関係については、表7に示すようにどの年齢段階でも子どもの横に並んでいるという回答(b)が最も多く、64.1%を占めている。次いで、子どもと一緒に寝転がっているという回答(c)、子どもを抱っこしているという回答(a)の順になっている。

表7 読み手と子どもとの位置関係(項目8)

年齢	a	b	c	d
全体	46(25.0)	118(64.1)	74(40.2)	3(1.6)
3歳児	8(26.7)	16(53.3)	14(46.7)	0(0.0)
4歳児	22(26.5)	57(68.7)	32(38.6)	1(1.2)
5歳児	16(22.5)	45(63.4)	28(39.4)	2(2.8)

(9) 絵本の読み語りをする時の配慮としては、表8に示すように、声の大きさや読む速さに気をつけているという回答(a)と、途中で子どもから質問が出たら答えるという回答(c)が多く、いずれも55%前後であった。次いで多かったのは、子どもの様子を見ながら興味を示しているかどうかを確認するという回答(b)で、とくに3歳児では最も多い回答になっている。これに対して、絵本の内容を理解できているかどうかを確認するという回答は16.3%と低かった。

表8 読み語りをする時の配慮(項目9)

年齢	a	b	c	d	e
全体	106(57.6)	87(47.3)	101(54.9)	30(16.3)	7(3.8)
3歳児	14(46.7)	19(63.3)	17(56.7)	4(13.3)	0(0.0)
4歳児	46(55.4)	37(44.6)	47(56.6)	13(15.7)	6(7.2)
5歳児	46(64.8)	31(43.7)	37(52.1)	13(18.3)	1(1.4)

(10) 子どもが絵本を好きかどうかについての見方については、表9に示すように、ほとんどがとても好き(a)、ないしは好き(b)と回答していて、あまり好きでない(c)という回答はわずかに4歳児で6名、5歳児で3名であった。わからない(e)と回答したのは5歳児で1名であった。したがって、保護者の目からは、ほとんどの子どもたちは絵本を好んでい

表9 子どもは絵本が好きか(項目10)

年齢	a	b	c	d	e
全体	90(49.2)	83(45.4)	9(4.9)	0(0.0)	1(0.5)
3歳児	14(46.7)	16(53.3)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
4歳児	44(53.7)	32(39.0)	6(7.3)	0(0.0)	0(0.0)
5歳児	32(45.1)	35(49.3)	3(4.2)	0(0.0)	1(1.4)

ると見られている。

(11) 絵本を読んでもらうことに対する子どもの要求の有無については、表10に示すように、よくあるという回答（a）が全体で51.1%，時々あるという回答（b）が47.8%で、合わせると98.9%になる。まったくないという回答（c）は全体でわずかに2名であって、どの年齢段階においても絵本を読んでもらうということに対する子どもたちの積極性が強く感じられる結果が示されている。また、こうした子どもからの要求にどう対応しているかについては、表11にみられるように年齢段階によって差異がみられる。すなわち、子どもからの要求があった時には必ず読むという回答（a）は3歳児で最も多く、半数以上を占めているのに対して、4歳児と5歳児では30%，20%というようにだんだん少なくなり、その分、状況によっては読むという回答（b）が多くなっていく傾向がみられる。また、4歳児、5歳児では自分で読むことを勧めたり、忙しい時には後で読むことを約束したりしているようである。

表10 子どもからの要求の有無（項目11-①）

年齢	a	b	c
全体	95(51.1)	89(47.8)	2(1.1)
3歳児	17(56.7)	13(43.3)	0(0.0)
4歳児	43(50.6)	41(48.2)	1(1.2)
5歳児	35(49.3)	35(49.3)	1(1.4)

表11 子どもからの要求への対応（項目11-②）

年齢	a	b	c	d	e
全体	58(31.5)	111(60.3)	4(2.2)	0(0.0)	11(6.0)
3歳児	16(53.3)	14(46.7)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
4歳児	28(32.9)	51(60.0)	3(3.5)	0(0.0)	3(3.5)
5歳児	14(20.3)	46(66.7)	1(1.4)	0(0.0)	8(11.6)

(12) 絵本にふれることで何を期待しているかについては、表12に示すように、どの年齢段階でも子どもの想像力を伸ばしてほしいという回答（a）が80%で最も多かった。次いで、3歳児では親子のふれあう心温まる時間を過ごしたいという回答（g）(56.7%)，子どもに優しい気持ちを持ってほしいという回答（c）(50.0%)，子どもに考える力を伸ばしてほしいという回答（b）(36.7%)という順になっている。4歳児と5歳児では回答（g）と回答（c）の順序が僅かな差で逆になっているが、全体としては同じような傾向を示している。

表12 絵本への期待（項目12）

年齢	a	b	c	d	e	f	g	h
全体	148(80.4)	76(41.3)	94(51.1)	25(13.6)	25(13.6)	16(8.7)	90(48.9)	9(4.9)
3歳児	25(83.3)	11(36.7)	15(50.0)	3(10.0)	4(13.3)	2(6.7)	17(56.7)	1(3.3)
4歳児	70(84.3)	34(41.1)	41(49.3)	15(18.1)	13(15.7)	7(8.4)	37(44.6)	4(4.8)
5歳児	53(74.6)	31(43.7)	38(53.5)	7(9.9)	8(11.3)	7(9.9)	36(50.7)	4(5.6)

(13) 自由記述の中で最も多かったのは、家庭で読み語っている時の子どもの様子についての記述である。この多くは子どもの楽しみ方に関するもので、列挙すると次のようなことがあげられる。

- ・好きな絵本は何度でも読んでほしいがる。
- ・感情を身体全体で表現する。
- ・絵の細部まで見ており、気に入った場面はしばらく見ている。
- ・じっくり話を聞き、絵と結びつけて想像力を働かせて、理解しようとしている。
- ・物語の主人公に同化して楽しんでいる。
- ・リズムがあって、ドキドキわくわくする内容を好む傾向がある。
- ・ストーリーや言葉の言い回しを日常生活に取り入れて遊ぶ。

しかし、興味を感じない絵本に対しては、途中から聞かなくなったりすることもあって、絵本によって好き嫌いのあることが指摘されている。

次に多かった記述は、絵本を読み語る意義や親の態度に関するものである。絵本を読み語ることが子どもに及ぼす影響としては、先に親の期待としてあげられた想像力にほかに、感受性、集中力、情緒の安定性、優しさ、社会性、言語の力など、人格のいろいろな側面への好ましい影響があげられている。また、親自身にとってプラスになることとしては、親子のふれあいの機会として会話が増え、確実に親子の絆が強くなることや、楽しい時間を子どもと共有できること、親の気持ちを優しくしてくれる、という意見のほかに、子どもの興味・関心や考え方について新しい発見があることがあげられている。

また、親の側の留意点として、親自身が絵本を読むことに集中している必要があること、子どもと一緒に楽しむことが大事で、時間の余裕が無いからといって早口で読んだりするのは好ましくないと考えられる。なお、親にとって楽しい絵本は子どもも好きであることが多いが、親が好きな絵本と子どもが好きな絵本とが違って、絵本の選択に困ることがあるという訴えもみられる。このほか、この機会に親の気持ちを子どもに伝えるようにしているという記述もある。

このほか、子どもの絵本への関心を高めるための工夫についての記述もみられる。このうちで、声の大きさや抑揚、声色などが効果的であったという意見が多いが、他方でそのことが想像力を抑制するのではないかと心配する意見もある。絵本を読み語ることの意義についての異論はみられないが、そのための時間の余裕が無いという不満が多かった。また、良い絵本の選び方の難しさについての訴えもいくつかあった。

総 括

以上、アンケートの項目ごとに家庭における絵本の読み語りの実態をみてきたが、ここでは

これをまとめて、(1) 絵本を読み語ることの意義についての考え方、(2) 読み語りの形態、(3) 絵本の選択の仕方、(4) 子どもの絵本の楽しみ方、の4つに分けて考察することにしたい。

(1) はじめに、絵本を読み語ることの意義を家庭ではどのように考えているかについてみると、項目12においては、そのことによって子どもの想像力が伸びることを期待しているものが大部分で、これに次いで親子の心のふれあいを求めるものが半数以上であった。これについて、項目4でも親のほうからの要望として多かったのは親子のふれあう時間を持ちたいということであった。また、自由記述の中にも、こうした親子の絆を強める働きを実感として指摘するものもあった。それと同時に、子どもの発達への影響としては知的側面、感情的側面、社会的側面、意欲的側面などの人格の全面にわたって重要視されている。

このように、絵本の読み語り子どもが発達に対して持っている意義と、それへの重要な影響を持っていると考えられる親子の絆を強めるという働きへの認識があるからこそ、項目1に示されているように、どの家庭においてもその形態には違いがみられるが、小さい年齢段階から絵本を読み語り始めているのであろう。しかし、その後の弟妹の誕生や家事の忙しさのために、それが日常の習慣的なものになるにはかなりの努力が必要であることが示唆されている。

(2) 次に家庭における絵本の読み語りかどのように行われているかについて、誰が、いつ、どのように、どのくらい読み語っているかについては、項目2、項目3、項目8、項目9、項目5の結果と項目13の自由記述の内容から考察することにした。

要約すると、絵本の読み手は母親がほとんどで、休日や時間のある時には父親も加わっているというのが実情である。読む時間帯は半数以上が就寝前で、決めていないというのも多く、時間に余裕ができた時であるとか子どもから要求があった時というのも少なくなかった。子どもとの位置関係は横に並んで読むというのが最も多く、次いで子どもと一緒に寝転がって読む、子どもを抱っこして読む、という順であった。これらは読む時間帯などとも関係しているのではないだろうか。

読む絵本の冊数には家庭によってかなりの差異がみられるが、1週間に1～2冊程度が多いが、日常的な習慣にはなっていないようにみえる。また、年齢段階が上がっていくにつれて少なくなっている。それには子どもが自分で読めるようになることも関係していると考えられる。しかし、親子の絆を強めるということを重視する立場から、子どもが自分で読めるようになっても親が子どもに読んでやることは続けることが好ましいという意見が研究者の中にはある。

読み語っている時に配慮していることとしては、声の大きさ、読む速さ、読んでいる途中で子どもの質問への対応、子どもの興味の有無などのほか、親自身が絵本を読むことに集中している必要があること、子どもと一緒に楽しむことが強調されている。

(3) 絵本の選択については、項目6の結果から、どの年齢段階においても子どもの興味・関心に合ったものが多くあげられているが、これに関しては項目7から年齢別の特徴をあげてみると、3歳児では内容の理解が容易であるもの、4歳児ではストーリー性の高いもの、5歳

児では多様な種類のものに興味を示すが、ユーモアを好む傾向も指摘されている。しかし、子どもの絵本の好みには個人差もあるので、あまり年齢別にこだわるのは適当でないように考えられる。

また、一般に親の好む絵本には子どもも興味を示すことが多いと言われているが、これに関する自由記述の中には実際に絵本を購入する場合に、親子間の好みの違いのために困惑するようなこともあげられていて、現実には絵本を適切に選択することはそれほどやさしいことではないように考えられる。

(4) 家庭における子どもの絵本の楽しみ方については、項目10、項目11、の結果から考察すると、保護者の目から見て、ほとんどの子どもは絵本が好きで、絵本を読んでほしいという強い要求を持っていると考えられている。これはどの年齢段階にも共通している傾向であるが、こうした子どもの要求に対する親の対応の仕方には年齢による違いがみられる。すなわち、子どもの要求に応じて必ず読むという対応は3歳児では半数以上であるが、4歳児、5歳児になるにしたがってだんだん少なくなってくる。その分、4歳児、5歳児では自分で読むことを勧めたり、忙しい時には後で読むことを約束したりしているようである。項目13の自由記述の中で最も多かったのは家庭における子どもの絵本の楽しみ方に関するもので、好きな絵本は何度でも読んでほしがったり、感情を身体全体で表したり、想像力を働かせながら絵本に集中している様子が印象に残っているようである。しかし、興味を持たない絵本に対しては途中で聞かなくなったりすることもあって、絵本によって好き嫌いのあることも指摘されている。これとは反対に気に入った絵本については、その話のストーリーや特定の言葉を日常の遊びなどに取り入れたりしているようである。

以上、今回の調査では家庭における絵本の読み語りの実態の概要が明らかになったが、幼児期における子どもの発達にとって個々の家庭が果たす役割の大きさを考えると、絵本についての実践的課題についてもさらに研究していく必要が強く感じられる。

付表 家庭での絵本の読み語りに関するアンケートの調査内容

1. ご家庭で絵本の読み語りを始めたのは、お子さんが何歳の頃でしたか。
a. 0歳 b. 1歳 c. 2歳 d. 3歳 e. 4歳 f. 5歳
g. 6歳 h. していない

2. どなたが絵本の読み語りをしていますか。
a. お母さん b. お父さん c. おばあさん d. おじいさん
e. その他 ()

3. いつ絵本の読み語りをしていますか。
a. 帰宅後 b. 夕食後 c. 就寝前 d. 時間は決めていない
e. その他 ()

4. どのような時に絵本の読み語りをしていますか。
(特にあてはまるものを3つ以内でお答えください。)
a. 新しい絵本を買った時
b. 幼稚園から絵本を持ち帰った時
c. 子どもが「読んでほしい。」と要求してきた時
d. 子どもを落ち着かせたい時
e. 伝えたいことや考えてほしいことがある時
f. 親子のふれあう時間をもちたい時
g. その他 ()

5. 1週間に何冊程度、絵本を読み語っていますか。
() 冊程度。

6. どのような絵本を選んで読み語っていますか。
(特に重視していることを3つ以内でお答えください。)
a. 書店や図書館で推薦されている絵本 b. 色彩の美しい絵本
c. 子どもが自分で読める絵本 d. 読む人が好んでいる絵本
e. ユーモアでおもしろいお話の絵本 f. 静かなお話の絵本
g. 内容が理解しやすい絵本 h. 知的好奇心をもたせる絵本
i. 子どもの興味・関心に合った絵本 j. 特に基準を決めていない
k. その他 ()

7. 読み語った時、お子さんの反応が良かった絵本の題名をご記入ください。
() ()

8. 絵本の読み語りをする際、読む人はお子さんとどのような位置関係になっていますか。

- a. 子どもを抱っこしている
- b. 子どもの横に並んで（座って）いる
- c. 一緒に寝転がっている
- d. その他（

9. 絵本の読み語りをする時にどのような配慮をしていますか。

（特に重視していることを2つ以内でお答えください。）

- a. 声の大きさ・読む速さに気をつけている
- b. 子どもの様子を見ながら、興味を示しているかどうかを確認している
- c. お話の途中でも子どもから質問があれば答える
- d. 子どもが絵本の内容を理解できているかどうかを確認する
- e. その他（

10. お子さんは絵本が好きですか。

- a. とても好き
- b. 好き
- c. あまり好きではない
- d. 嫌い
- e. わからない

11. お子さんから「絵本を読んで。」と要求してきますか。

- a. よくある
- b. 時々ある
- c. まったくない

・お子さんからの要求があったときにはどのように対応されていますか。

- a. 必ず読む
- b. 状況によっては読む
- c. 「自分で読みなさい。」と言う
- d. 放っておく
- e. その他（

12. 絵本にふれることでどのようなことを期待していますか。

（特に重視していることを3つ以内でお答えください。）

- a. 子どもに想像力をのばしてほしい
- b. 子どもに考える力をのばしてほしい
- c. 子どもに優しい気持ちを持ってほしい
- d. 子どもに美しいものに感じる心を育ててほしい
- e. 子どもにいろいろな言葉を覚えてほしい
- f. 早く子どもに文字が読めるようになってほしい
- g. 親子でふれあう心温まる時間を過ごしたい（親子の絆を深めたい）
- h. その他（

13. お子さんに絵本を読み語っていて感じたことや、絵本や読み語りに関してお気づきのこと、などが
ありましたらご自由にご記入ください。